



地域の先生方には平素より何かとご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年度よりメンタルヘルス科の部長として着任致しました、野本宏と申します。

当院ではこれまで神経科として診療を行ってまいりました

が、新しい令和の時代を迎え、今年度からメンタルヘルス科(精神科)を標榜する運びとなりました。精神保健指定医、精神科専門医、日本老年精神医学会専門医、日本総合病院精神医学会専門医として総合病院や精神科単科病院で勤務してきた経験を活かし、地域医療に貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

当科の診療内容につきまして

当科では、総合病院の1つの診療科として、コンサルテーション・リエゾンを中心にを行っています。「リエゾン(liaison)」はフランス語で連携・連絡という意味であり、精神医療と身体医療を橋渡しすることで、患者様への包括的な医療を目指しています。当院は精神科病棟を持たないため、当科では一般病棟に身体疾患で入院している患者様の精神症状に対して、向精神薬による薬物療法・精神療法を主にしています。

入院診療につきまして

当院では2018年4月に精神科リエゾンチームが発足しました。精神疾患の既往がある方、他院精神科に通院中の方、入院中に抑うつ・適応障害・食思不振、意欲低下、精神運動興奮、せん妄等の精神症状を呈した方などに対し、主科からのコンサルトを受け、入院治療がスムーズに進むように当科でリエゾンを行います。昨今は高齢化が進んでおり、認知症のケアや、認知症に伴った精神症状に対する治療の重要性は高まりつつあります。認知症ケアチーム、精神科リエゾンチームが活発な情報交換を行いながら、個々の患者様に対し、よりきめ細かな治療を心がけています。チームは精神保健指定医、精神看護専門看護師、精神保健福祉士、薬剤師、作業療法士などの多職種から構成され、定期的な回診とカンファレンスを行っています。

ます。退院後の生活にスムーズに移行できるように、ソーシャルワーカーと協力しながら地域との連携も図っています。

外来診療につきまして

気分障害(躁うつ病)、適応障害、不安障害、統合失調症、認知症などの疾患を対象に、精神療法や薬物療法を行なっています。外来は院内紹介制・完全予約制であり、院内他科からの紹介による受診や、当院に入院されていた患者様の退院後のフォローアップ等が主となっています。当院身体科に通院されている患者様の精神症状が悪化した際や、当院身体科入院前(例えば手術が予定されているなど)に精神症状の評価が必要な患者様など、受診希望の際はご紹介ください。当院には精神病棟がなく、著しい幻覚や妄想、強い興奮や希死念慮などがある方の治療は困難であり、専門的な治療が必要と判断した場合は、他院を紹介させていただくこともあります。外来は非常勤医師も含め週3回行っておりますので、まずはご相談ください。

最後に

精神科医療においては、1つの病院で全てが完結するものではなく、地域における保健・医療・福祉と緊密で良好な連携体制が不可欠であると考えております。常勤医師は私1人で、十分な診療体制とは言えず、まだまだ力不足は否めません。当院での医療水準の向上を図り、地域医療に貢献すべく、今後1つ1つ真摯に取り組み研鑽を積んで参りますので、温かくお見守りいただけますと幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



東京山手メディカルセンター 外来担当表

※医師の指定がある場合は、お電話にて休診をご確認ください。 ※診療の受付時間は8:30~11:00です。
※内科初診担当は交替制です。 ※肛門科、婦人科の「*」は女医です。

◆受付時間を過ぎる場合や緊急の場合は総合医療相談室にお問い合わせください。

総合医療相談室(業務時間 午前 8:30~午後 5:00) 直通 TEL:03-3364-0366 直通 FAX:03-3365-5951

		2019年5月					
		月	火	水	木	金	
内科 2100	午前	内科1 (初診・ 交替制)	鮎岡 裕史(傷)	川口 直彦(傷)	薄井 宙男(傷)	薄井 宙男(傷)	佐藤 國芳(傷)
			吉川 俊治(傷)	村上 輔(傷)	渡部 真吾(傷)	吉川 俊治(傷)	鈴木 篤(傷)
	午後	内科2	江本 範子(呼)	米野 由希子(血)	柳 富子(血)	三浦 英明(肝)	高添 正和(炎腸疾)
			吉村 直樹(炎腸疾)	河川 貴昭(炎腸疾)	高添 正和(炎腸疾)	高添 正和(炎腸疾)	吉村 直樹(炎腸疾)
総合診療科・ 救急科	午前(9~13時)	笠井	江本	笠井	笠井	笠井	
午後(13~17時)	大進寺	岩田	岩田	岩田	結城		
肛門科 2160	午前	山名 哲郎	佐原 力三郎	*古川 聡美	岡田 大介	岡田 大介	
	午後(1:30~3:30)	森本 幸治第2・4週のみ(1:30~3:00)	山名 哲郎	岡田 大介	佐原 力三郎	*古川 聡美	
外科 2120	午前	消化器外科 (上部消化管・ 肝胆膵外科)	日下 浩二	伊藤 詩歩	伊地知 正賢	増田 晃一	柴崎 正幸
			久保田 啓介	柴崎 正幸	藤田 純美 (形成外科のみ)	藤田 純美 (形成外科のみ)	藤田 純美 (形成外科のみ)
	午後	完全予約制	呼吸器外科	永井 博之	森田 理一郎	森田 理一郎	
			心臓血管外科		惠木 康壮	高澤 賢次	
婦人科 2130	午前	予約	*北 麻里子	*野村 香央里	赤枝 俊	*大村 恵理香	橋本 耕一
午後	予約外	*内藤 早紀	交替制	小林 浩一	*手塚 真紀	大木 慎也	
午前産科(予約)	交替制	*内藤 早紀	*内藤 早紀	*内藤 早紀	*飯塚 奈緒	交替制	
午後産科(予約)	交替制		交替制	飯島 卓夫	飯島 卓夫	飯島 卓夫	
整形 外科 2180	午前	整形	交替制	田代 俊之	飯島 卓夫	飯島 卓夫	飯島 卓夫
			梅香路 英正 偶数週 飯田 敏且	休診	初診9:30迄	梅香路 英正 (骨粗鬆症)	飯島 卓夫(腫瘍)
午後	完全予約制						
脳外 科 2140	午前	脳神経外科	緊急対応のみ	武田 泰明 ※診察開始は10:30~	高草木 宏之	武田 泰明	大野 博康
			大野 博康	紹介救急 大野	神保 洋之	紹介救急 武田	
小児 科 2110	午前	1診 2診 3診	早川 潤	早川 潤	早川 潤	松本 多裕	早川 潤
			田嶋 希子	峯 牧子	赤尾 見春	赤尾 見春	赤尾 見春
眼科 2150	午前	1診 2診 3診	赤尾 見春	上砂 光裕	峯 牧子	赤尾 見春	赤尾 見春
			地場 達也	地場 達也	地場 達也	地場 達也	地場 達也
泌尿器 科 2170	午前	1診 2診 3診	日下部 茉莉	日下部 茉莉	日下部 茉莉	藤野 雄次郎	日下部 茉莉
			北村 盾二	加藤 司順	加藤 司順	休診	加藤 司順
耳鼻 科 2225	午前	1診 2診 3診	岡田 十交替制 (奇数週)	小村 さやか	岡田 和也	岡田 和也	岡 峰子
			岡 峰子	小村 さやか	松田 信作	松田 信作	
午後(火)のみ (13:30~14:30)			岡/小村(交替制)				
皮膚 科 2220	午前	1診 2診 3診	鳥居 秀嗣	仲 優	鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣
			岩瀬 麻衣子	岩瀬 麻衣子	岩瀬 麻衣子	岩瀬 麻衣子	岩瀬 麻衣子
歯科 2210	午後(1:30~3:00)	1診 2診 3診	鳥居 秀嗣	岩瀬 麻衣子	岩瀬 麻衣子	岩瀬 麻衣子	岩瀬 麻衣子
			中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭
午後			熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也	

東京山手 メディカルセンター

〒169-0073 新宿区百人町3-22-1

総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366
FAX 03-3365-5951
http://yamate.jcho.go.jp/

この冊子は環境にやさしい有害廃液の出ないクリーン印刷で作成しています

医療連携 つつじ

2019年 6月

36号

東京山手メディカルセンター 〒169-0073 新宿区百人町3-22-1
総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366 FAX 03-3365-5951 http://yamate.jcho.go.jp/

TOPIX

- ▶ 新年度の御挨拶/院長 矢野 哲
- ▶ 東京山手メディカルセンターとの連携を通じて/新宿ヒロクリニック 英 裕雄
- ▶ 形成外科の常勤始動しました/形成外科 藤田 純美・富岡 容子
- ▶ 着任の御挨拶/脳神経外科 大野 博康
- ▶ 着任の御挨拶/メンタルヘルス科 野本 宏
- ▶ 東京山手メディカルセンター/外来担当表

新年度の御挨拶

院長 矢野 哲

昨年病院長職を拝命してから、早1年が経ちました。この1年間、当院が立地する大久保地区をはじめとして新宿区、中野区、杉並区、豊島区、練馬区、板橋区、北区、渋谷区の医師会の多くの先生方と親しくさせていただきました。常日頃より医療連携にて当院をお引き立ていただき、厚く御礼申し上げます。

これまで当院は、多くの診療科の優秀な医師により区西部二次医療圏の急性期病院として最善の医療の提供に邁進して参りました。2019年度から標榜診療科として総合診療科、救急科、メンタルヘルス科、形成外科、緩和ケア科を新たに立ち上げ、外科は食道胃外科(久保田啓介部長)、肝胆膵外科(伊地知正賢部長)、乳腺外科(橋本政典副院長)に細分化しました。総合診療科部長には笠井昭吾地域診療・救急部門部長が就き、救急科部長は武田泰明脳神経外科部長が併任します。救命救急医療においては、総合診療医と領域別の専門医が協働する地域完結型医療に取り組んでおります。メンタルヘルス科部長には野本宏順天堂大学静岡病院准教授が着任し、昨今急増している精神疾患・認知症を合併した患者の皆様にも対応できるようになります。形成外科は、5月から常勤医師が東大医局から着任し、乳癌手術時には乳房同時再建も可能になります。また、国立国際医療研究センター国府台病院脳神経外科の大野博康診療科長が第一脳神経外科部長として着任し、当院脳神経外科の救急対応を活性化すると期待されます。緩和ケア科部長は日下浩二肝胆膵外科医長が併任し、がんなどの病気の身体的・精神的苦痛を緩和する治療を提供します。その他これまで通り、国内最大級の炎症性腸疾

患センターを擁する消化器内科、大腸肛門病センターを擁する大腸肛門外科、カテーテルアブレーションによる不整脈治療が得意な循環器内科、間質性肺炎など特殊な呼吸器疾患に対応できる呼吸器内科、整形外科領域全般をカバーできる整形外科と脊椎脊髄外科、腹腔鏡手術や3D/4D胎児超音波画像診断(小林浩一副院長)が得意な産婦人科等々、一騎当千の優秀な専門医がそろっています。その他の診療科の部長も優れており、柴崎正幸統括診療部長が全診療科の実務を統括します。詳細な内容につきましては、最近刷新しました当院ホームページの診療科案内のサイトを御参照いただければ幸いです。

昭和22年11月に「社会保険山手病院」として内科、外科、産婦人科、歯科の4科で始まった当院も、これで日本専門医機構が定める全診療科目がそろうこととなります。また、6月からはNECのWindows10の電子カルテシステムが稼働します。電子カルテは、各診療科・各部門が同一患者さんのカルテ情報を共有できることが最大のメリットです。これは、医療安全上も大切なことです。さらに、CT・MRI装置を最新版に更新し、地域医療支援病院の要件を整えています。当院は地域住民の皆様健康増進と疾病克服に対する多様な御要望にお応えすべく、地域の先生方と協力して医療・介護・福祉等のサービスが滞りなく提供できるように努力していく所存であります。地域医療・在宅医療に携わる先生方と共に地域包括ケアシステムを円滑に構築して参りたいと考えております。

今後とも引き続きご卒よりよろしくお願い申し上げます。

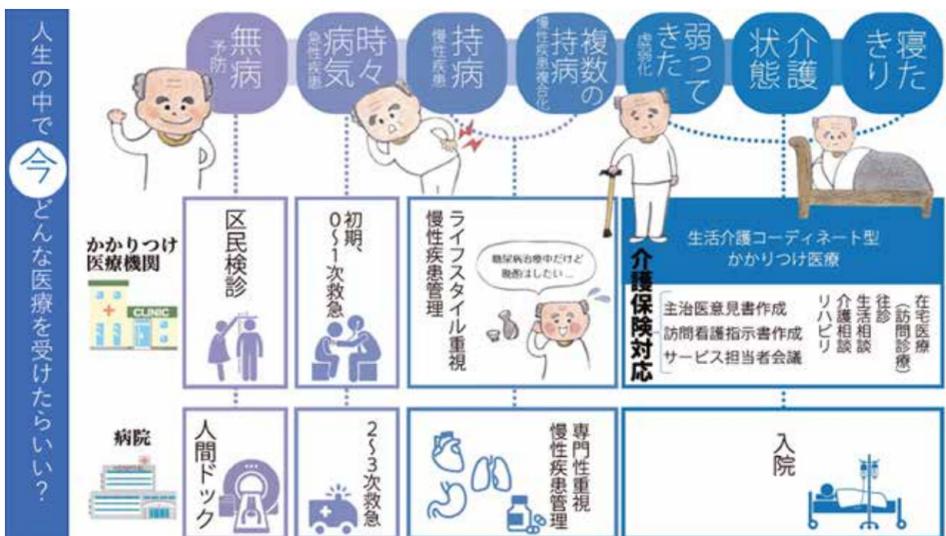
東京山手メディカルセンターとの連携を通じて

新宿ヒロクリニック 英 裕雄



当院は平成13年西新宿で開設。長らく訪問診療に特化した医療機関として、ガンや難病などの重症者の在宅医療を行ってまいりました。平成27年大久保に移転して外来と訪問診療、双方に力を入れるいわゆるかかりつけ医療機関として業務変容し現在に至っております。

今後高齢虚弱者に対するかかりつけ医療は、ますます重要となり、通院できる方から、通院困難な方、さらには寝たきりになって外出困難な方まで、外来から往診対応さらには在宅医療までを一貫して対応したり、連携を通じて看護、リハビリ、栄養指導など多方面の支えを一貫して継続的に対応することが重要と考えております。(参照図)



貴院とは、患者さんの受診、入退院連携はもとより、研修医の実習協力や実際の診療業務協力をいただくなど多方面の連携を取らせていただいております。心より感謝いたしております。さらに貴院は在宅療養後方支援病院として、在宅医療を行うかかりつけ医療機関にとっては、大変心強い頼りになる存在です。一方で最近、様々な事情や脆弱性をお持ちの方が多く、なかなか医療的解決だけでは対応しきれない事情を持った方も多くいらっしゃいます。いつもご迷惑、かつご無理なお願いをしており、貴院の先生方はじめ、スタッフの方々にご迷惑をおかけしていることも多いと思います。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

今後ますます高齢化、虚弱化、国際化が進むこの地域を、貴院とより密接な連携を取りながら、お互いに役割を高めながら、支えられたらと思っております。今後とも、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

新宿ヒロクリニックHP:

<http://www.hiro-clinic.com/>

医療法人社団三育会HP:

<http://www.3iku.org/>

形成外科の常勤 始動しました

形成外科 藤田 純美・富岡 容子

毎週月・水・木・金曜日 9:00~12:00 月曜日 13:30~16:00

令和元年5月 常勤医による診療を開始しました

形成外科とはどのような科ですか？



形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、様々な手技を駆使して機能的・形態的な再建を行う科です。より正常に近づけ、あるいはより美しくすることによって、皆様の生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

頭のでっぺんからつま先まで

形成外科では特定の臓器を診療するのではなく、体じゅうのありとあらゆるところと密接に関わります。表から見るところでは、きずをきれいにしたり、皮膚腫瘍を診ます。眼瞼下垂や足指の陥入爪も治療します。首から下の骨折は整形外科ですが、顔面の骨折は形成外科で診療します。リンパ浮腫に対してはステージ毎に合った治療をご提案します。乳がん術後の乳房再建についてもご相談ください。また、形成外科では切除すべき病変を切除するだけでなく、皮膚移植・局所皮弁・遊離皮弁をはじめとした移植・骨切りや整復固定などの手技を駆使して、機能と形態を改善させることがあります。

患者に寄り添う医療を提供します

患者様ごとに「最適」な医療は異なります。十分な説明の上、その方にとってベストの医療をご提案・ご提供いたします。

受診を希望される患者様へ

形成外科の診療は月・水・木・金曜日に行っております。木曜日は富岡医師の外来になります。外来受診をご希望の場合、平日の14:00-17:00の間に電話予約ください(03-3364-0251から外科外来につなげるようにお伝えください)。原則当日受付は11時までですが、他診療の都合が許す限りご対応しますので、些細なご相談でもお寄せください。

赤ちゃんからお年を召された方まで

子供のけがや先天的なお病気による変形から、悪性腫瘍切除に伴う変形、歳を重ねることに生じる変形まで、生活の質を向上させるお手伝いをします。「より美しく」することは美容診療ですが、「変形を正常に近づける」ことは保険で治療できます。まずはお気軽にご相談ください。

①きずや形をきれいにします

“昔受けた怪我のあと”、あるいは“手術のあと”をきれいにすることも、今ある“なかなか治らないきず”のご相談も、形成外科にお任せください。きずの背景を分析し、治療戦略をご提示します。

②乳腺外科と連携し乳がんの患者さんのお力になります

当院の経験豊かな乳腺外科専門医と連携して、再建を含めた乳がん治療を希望する女性のお力になるよう尽力します。話を聞くだけでもという方も大歓迎です。インプラントによる乳房再建は保険診療で受けられます。

③眼瞼下垂や腫瘍切除・顔面変形など、一般形成外科の治療も行います

最近まぶたが下がって見えにくい、とういことはありませんか。もしかするとそれは「眼瞼下垂」かもしれません。眼瞼下垂は保険診療で治せます。是非ご相談ください。他に形成外科では皮膚腫瘍や顔の変形、先天異常の治療を行っています。

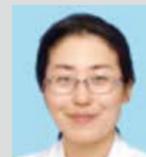
常勤医師 藤田 純美

経歴: 佐賀大学卒業後、東京大学形成外科入局。虎の門病院、焼津市立総合病院、三重大学勤務を経て当院に勤務
所属学会: 日本形成外科学会



非常勤医師 富岡 容子

経歴: 筑波大学卒業後、東京大学形成外科入局。福島県立医科大学・静岡県立がんセンター・自治医科大学等で研修を経て、2014より東京大学へ勤務
所属学会: 日本形成外科学会、日本顎顔面外科学会、日本マイクロサージェリー外科学会、日本乳癌学会、乳房オンコプラスティック学会、日本創傷外科学会



着任の御挨拶

脳神経外科 大野 博康



平成31年4月1日付けで第一脳神経外科部長として赴任致しました。私は平成6年に東京大学を卒業し、脳神経外科医局に所属。その後は脳神経外科医として診療、研究、教育に携わってきました。東京大学付属病院の後は、千葉

県鴨川市にある亀田総合病院、福島県会津若松市にある会津中央病院など地方の脳卒中基幹病院の勤務を経て、平成16年からは当院と同じく新宿区にある国立国際医療研究センターにて12年間勤務していました。

地方勤務時には地域で発生する脳卒中患者を平日休日の区別なく24時間体制で治療しており、脳神経外科医としてのキャリアの大半を脳卒中急性期治療に捧げてきています。その成果もあって、脳卒中急性期治療に最も必要とされる適切な診断、治療の技術は高いものを身に付けています。それを評価され、国立国際医療研究センター時代には脳卒中グループのリーダーを務めあげました。

脳卒中のうち、特に脳梗塞急性期治療における治療技術の進歩には目覚ましいものがあります。臨床実績が蓄積されるのに伴い、短時間で治療完了まで迎えることの重要性も認識されてきております。このため急性期治療を適切に受けられる施設へいかに早く転送するかという議論も進み、昨年2018年12月10日に「健康寿命の延伸などを図る為の脳卒中、心臓病その他循環器病に係る対策に関する基本法」が国会で可決・成立し12月14日に法律が公布され厚生労働省を中心に脳卒中に対する社会基盤の整備が進められています。これからは脳卒中の治療に関しては病院毎に診療を担う体制から、地域の医療をtotalとしてどう適切に機能させていくかが問われる時代となります。ただ体制はこれから作り上げていく最中であり、三次救急に対応する病院に処理能力を超えた過度の負荷がかかってしまうことも予想されます。脳卒中患者のトリアージを初期対応をした医療施設が行い、重症度に応じた患者の搬送を行う必要が出てきます。そういった理想的な地域医療システム構築に独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)の

役割があると考えています。千葉県、福島県にて地域で発生する脳卒中患者を一手に担った経験に加え、東京都の三次救急を担う中心的存在である国立国際医療研究センター病院に長期間勤務した経験は貴重なものであると自負しています。地域のクリニックと24時間365日稼働の三次救急センターをつなぐ架け橋として機能出来るよう努力していきたいと思っています。

脳神経外科医としてのキャリアは25年になります。その間には脳卒中のみならず、脳腫瘍、外傷、脊椎外科など様々な患者様の治療を行ってきました。特に手術の技量に関しては非常に高い精度と正確さを誇っており、一般的に必要とされる手術時間の約半分程度の時間で手術を完了させることが出来ます。その技術は同僚の脳神経外科医のみならず、麻酔科医や看護師にまで評価される程です。

脳神経外科領域は人間の生命活動の中でも非常に重要な分野です。機能の障害が発生してしまった場合に被るダメージは甚大なものがあります。必要が発生してしまった場合にはできる限り診療技術の高い医師に治療していただくのが一番です。東京山手メディカルセンターにそういう医師の一人が居るということを記憶の片隅で結構ですので留めておいていただけたらと思っています。何卒よろしくお願ひします。

